

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	九州大学	整理番号	P02
プログラム名称	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム		
プログラム責任者	安浦 寛人	プログラム コーディネーター	矢原 徹一

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### [総括評価]

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、リーダー養成に必要な教育要素を「決断科学」として捉えて、国内外での実践的活動プログラム等を整備している点はある程度評価できるが、意図している「決断科学」の学問的体系を十分には構築するに至っておらず、学位プログラムとして確立しているとは言い難い。プログラムに不満を持つ学生も少なからず見られることから、出口戦略を明確にした上でのプログラムの改善が求められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、学生が自己評価を行い、自らの成長を確認するシステムが確立していることからある程度の成長は期待される。しかし、自治体、特に産業界や国際機関等との連携が少ないため、側面からの取組を強化してプログラムに社会的な課題を増やすことが求められる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学生に対して専門と専門外のメンターを計2名配置している点は評価できる。今後、プログラムの目標を再確認し、学生が将来目指す職種に精通する人材をメンバーに加えるなど工夫することで、更なる指導体制の整備強化を図ることが求められる。

優秀な学生の獲得については、文系・理系や留学生の比率などバランス良く優秀な学生を獲得している点は高く評価できる。今後、更に一般学生に本プログラムの内容を周知徹底させ、応募者数を増やすことが重要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、カリキュラム変更よりも現行のフィールドワークにおいて現地の人も交え英語で議論し、決断の過程を学ばせるといった方式等を更に充実させ改善することが現実的である。そのためには、通常の英語力（他の言語も）の向上策は必須であり、それを TOEFL の得点など目に見える形で示す必要がある。

事業の定着・発展については、プログラム内容が大学院教育プログラムの発展型“持続可能な社会のための決断科学府”の設置が計画されているので、今後一層の努力が求められる。